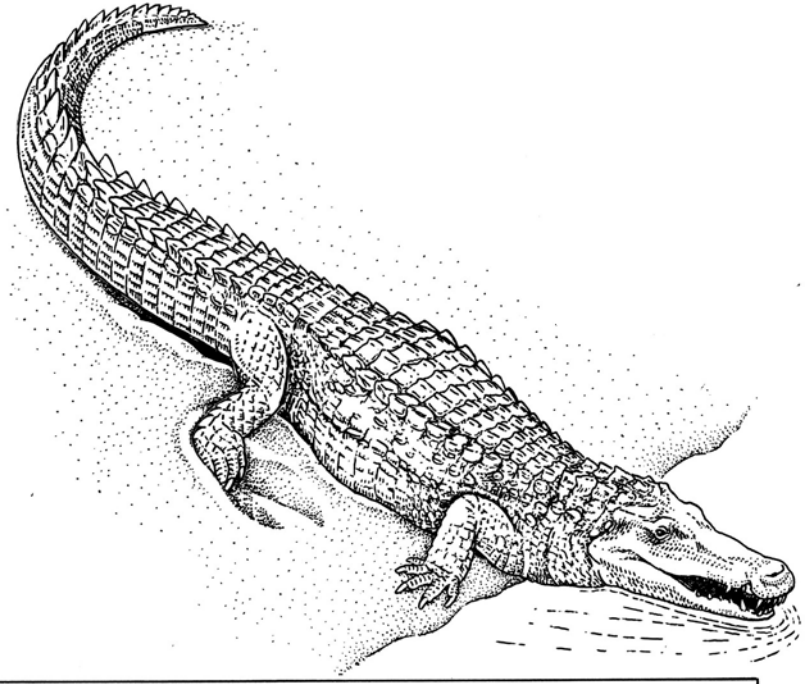
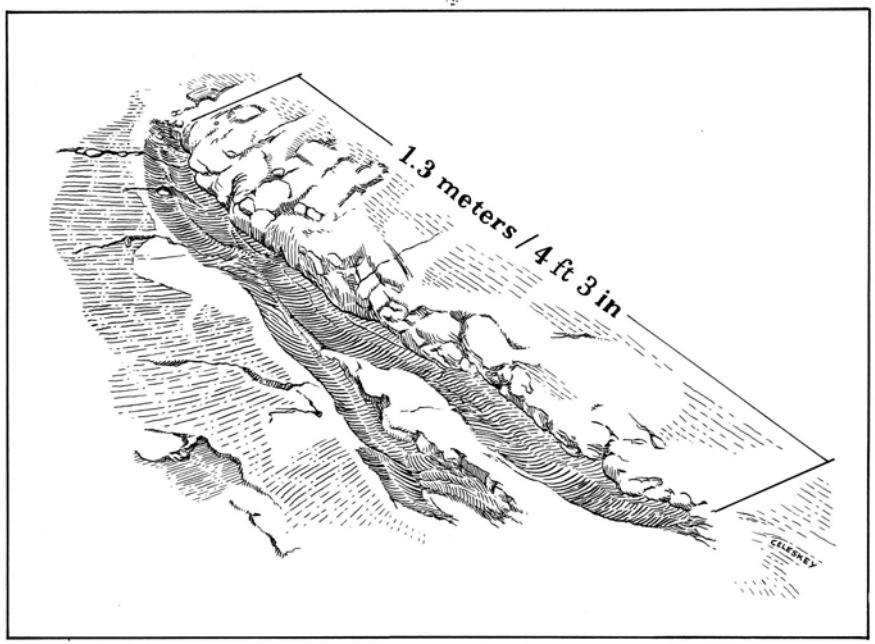
クロコダイルのすべった痕





この少しいびつな形をした痕跡はクロコダイル類のワニが川の浅瀬に向かって滑り降りた時についたものと思われ、足跡が一つ、その後に腹部と尻尾の跡が続いているのが分かります。このような痕跡はモリソン層の中のモアブのすぐ南でも見つかっていますから、ここで見つかるのも自然なことです。

北米の西部ではジュラ紀後期から白亜紀後期にかけてクロコダイル類のワニは繁栄していました。このことは 現在ミシシッピー川南端の三角地帯に生息しているクロコダイル類ワニやアリゲーター類ワニが、アメリカのユタ州からカナダのアルバータ州あたりまで住んでいたということを物語ります。つまり、恐竜時代のこの辺りの気候が現在の南部のそれと同じようだったということですから、これはまさに驚嘆に値します。

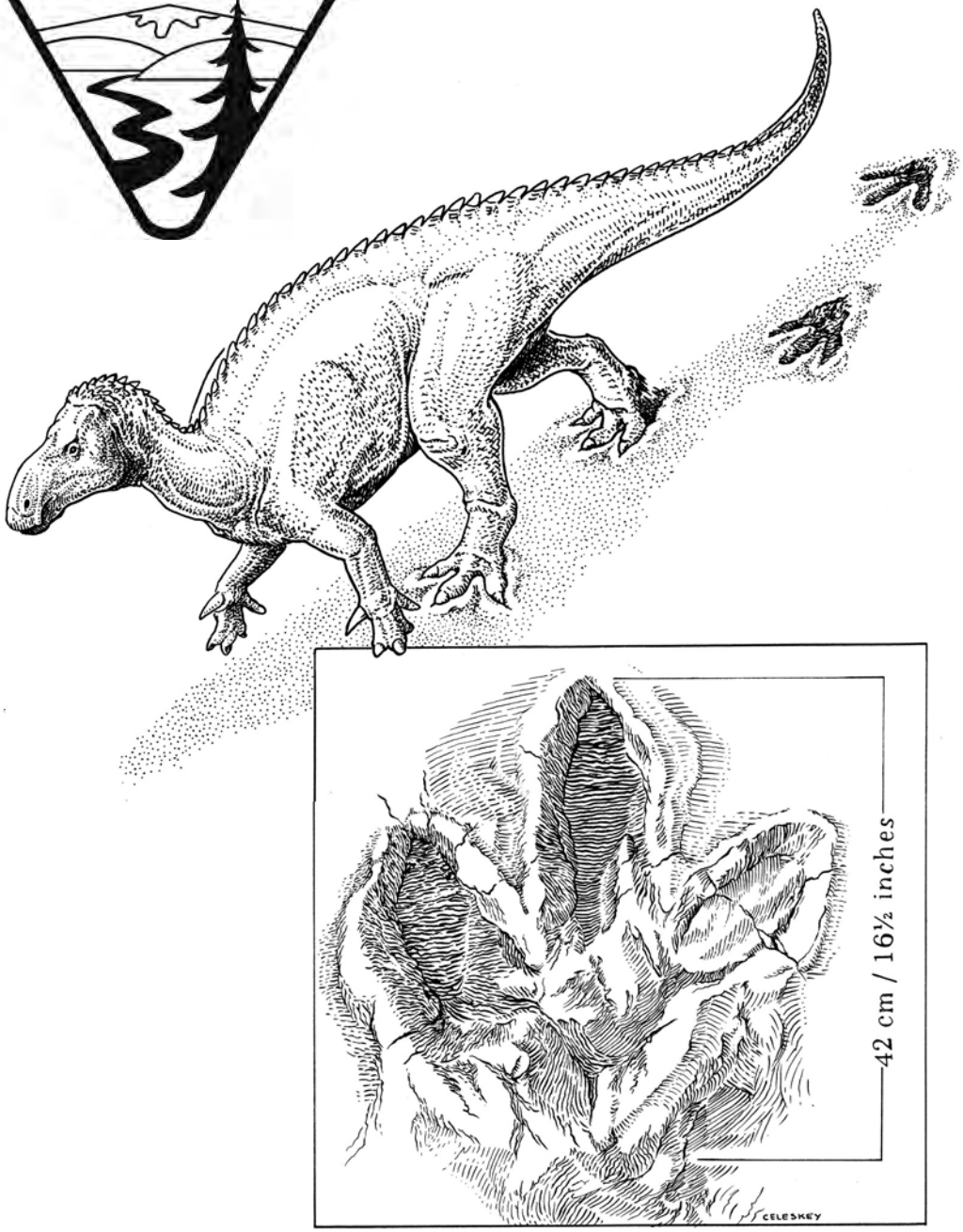
足跡の名前：　*Hatcherichnus*-like traceハッチェリクヌスのような形

白亜紀前期（およそ1億1200万年前）

シーダーマウンテン層

NATIONAL SYSTEM OF PUBLIC LANDS
U.S. DEPARTMENT OF THE INTERIOR
BUREAU OF LAND MANAGEMENT

NATIONAL SYSTEM OF PUBLIC LANDS
U.S. DEPARTMENT OF THE INTERIOR
BUREAU OF LAND MANAGEMENT



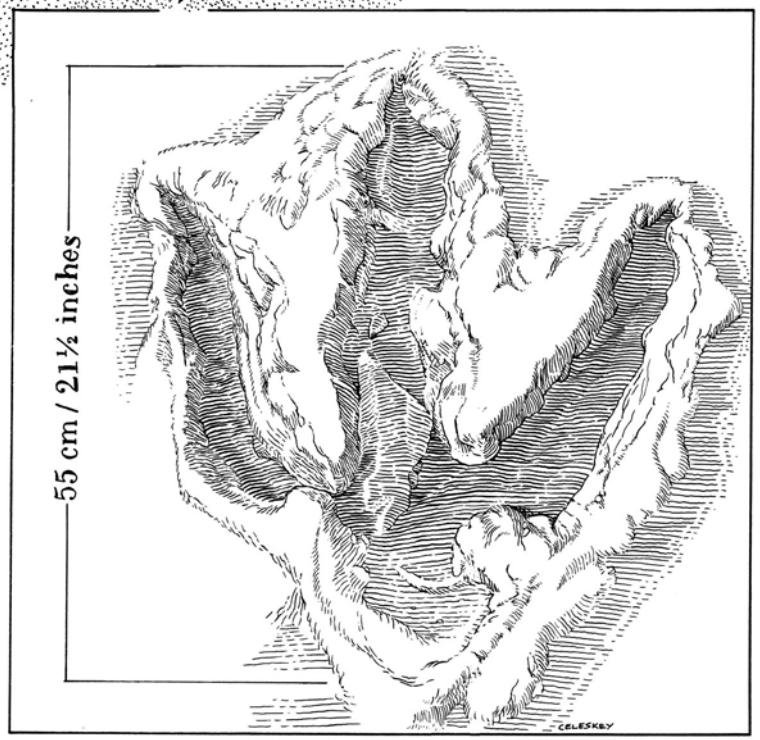
鳥脚類　足跡化石

今あなたの前にある足跡は鳥脚類の一種のイグアノドンに似た恐竜のものであろうとされています。この恐竜は植物食で、ほとんど後足で二足歩行していたようですが、時には前足も使い四足歩行もしていたようです。ここに見える足跡の大きさは幅と長さが11インチ（30センチ）ぐらいで、歩幅は43-45インチ（110-115センチ）となっています。

シーダーマウンテン層に含まれる今あなたが立っているルービーランチ部層では鳥脚類の化石はまだ発見されていません。しかし、前後の時代、つまり上下の地層からは鳥脚類の化石が見つかっています。足跡化石が見つからなかったら、途中で鳥脚類が姿を消してしまったと思われてしまったかもしれません。

足跡の名称：*Caririchnium*-likeカリリッチニュームのような形

白亜紀前期（およそ1億1200万年前）



大型獣脚類　足跡化石

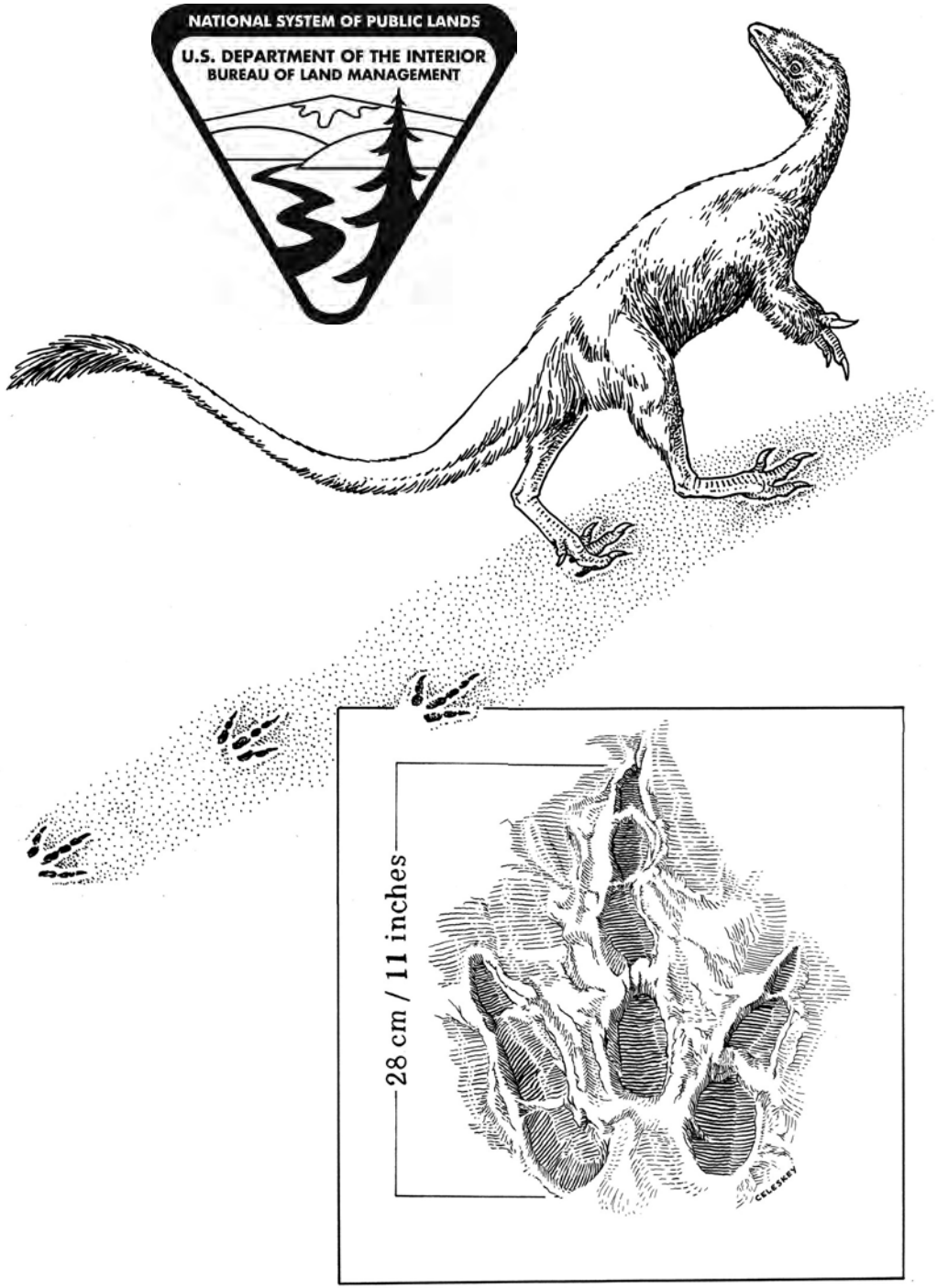
今あなたの前にある 保存状態が非常によいこの大きい足跡は、ここから先に続く１７歩の第一歩で、大型の肉食恐竜の足跡です。これに非常によく似た恐竜の足跡がテキサス州の中央部でも見つかっています。この足跡は長さが約16-20インチで(41 -51 センチ)、この足跡を残した恐竜は腰までの高さが少なくとも8フィート(244 センチ)ぐらいはあったようです。 これらの足跡から非常に大きな恐竜が存在していたことは分かりますが、興味深いのは、骨の化石ではこのような大型獣脚類化石はまだ発見されていないのです。巨大な肉食恐竜の骨の化石がどこかこの辺りに人知れず埋もれていて、発見されるのを待っているのかもしれません。

足跡の名称：*Irenesauripus*イレネソーリプス

白亜紀前期（およそ1億1200万年前）

シーダーマウンテン層

NATIONAL SYSTEM OF PUBLIC LANDS
U.S. DEPARTMENT OF THE INTERIOR
BUREAU OF LAND MANAGEMENT



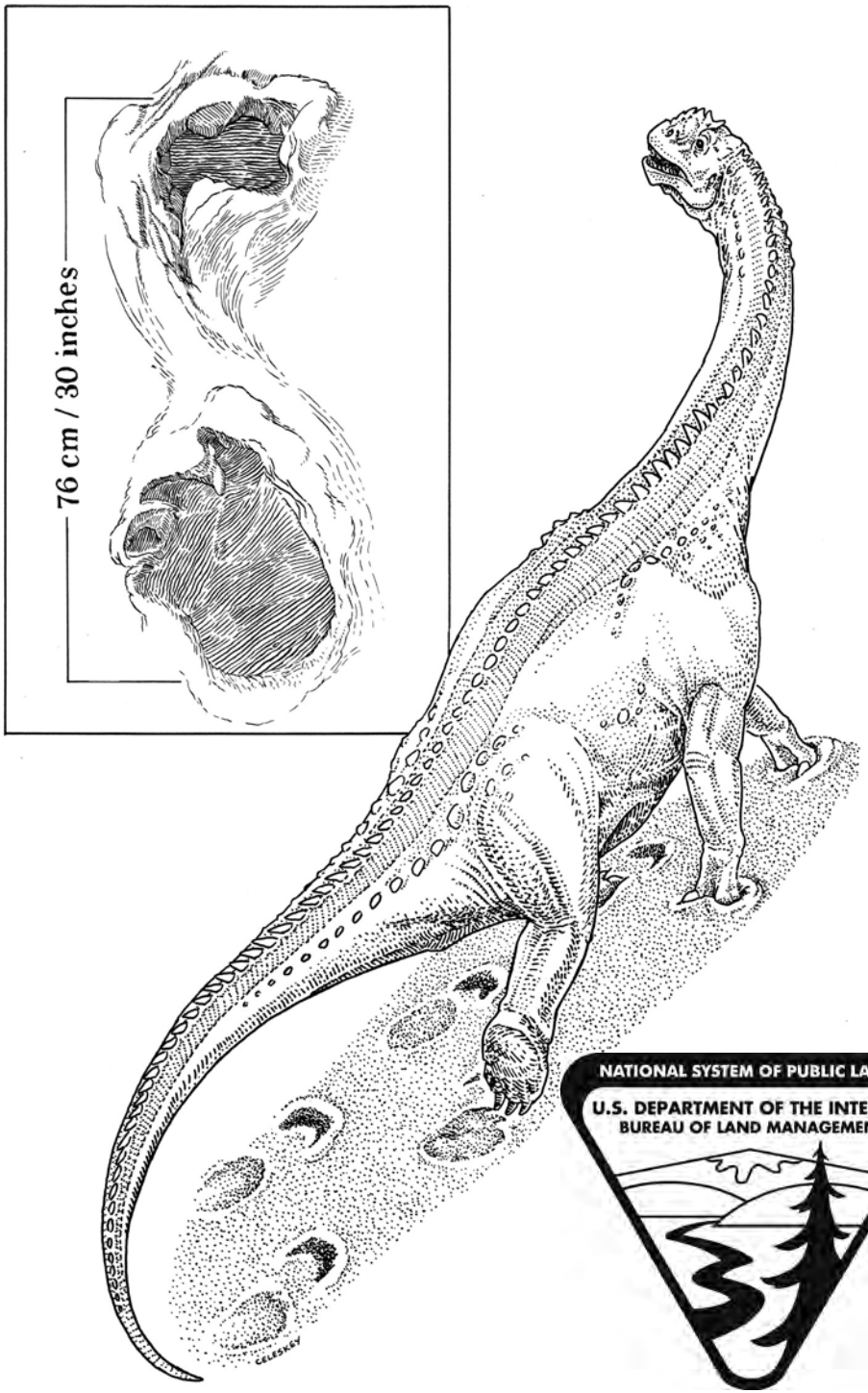
中型獣脚竜　足跡化石

今あなたの目の前に見えるのは中型の肉食恐竜の足跡だと考えされています。この足跡に非常に似ている足跡がワイオミング州でも発見されています。この足跡の長さは約7-14インチで（18-36 センチ)、腰までの高さがが6フィート（183 センチ)ぐらいの恐竜のものと思われます。しかし、どの種の恐竜がこの足跡を残したかについては正確なことは分かっていません。（シダーマウンテン層からはこのぐらいの体の大きさと足の形の獣脚類が複数種見つかっているからです。）可能性として、オルニソミモサウルス類のような比較的中型の獣脚類であっただろうと考えられています。

足跡の名称：*Carmelopodus*-likeカルメポダスのような形

白亜紀前期（およそ1億1200万年前）

シーダーマウンテン層



竜脚類　足跡化石

竜脚類は首の長い植物食の恐竜で、この地域に生息していたとされています。四足歩行で、前足の足跡は後足より少し小さいです。前足はインゲンマメに似た形の長さ8–9インチ（20–23センチ）ぐらいの足跡を残していますが、後足の方は13–19インチ（33–48センチ）ほどの大きさで、ゾウの足か大きなお皿のくらいの大きさです。

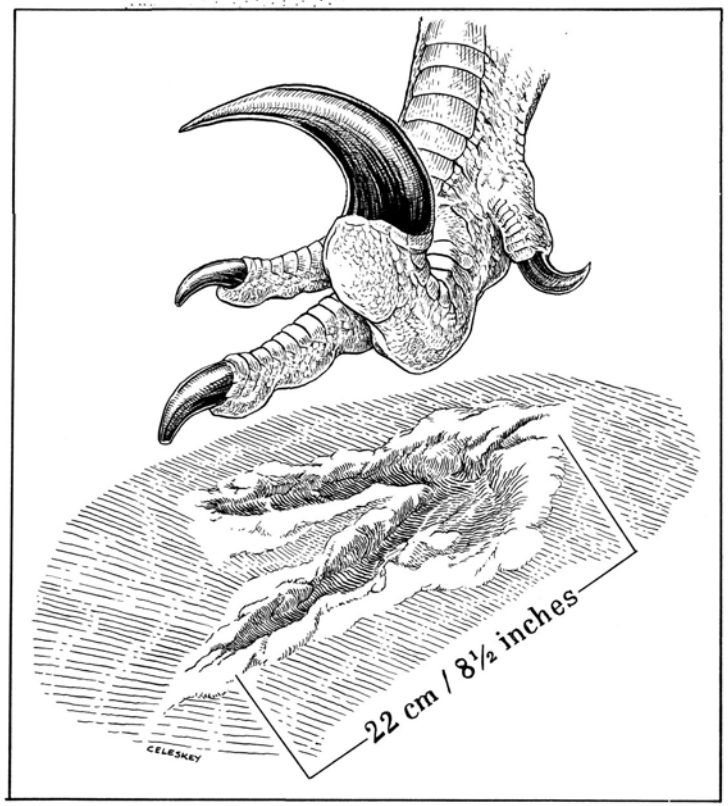
後足の足跡をよく見ると、横に張り出している足の指が見えます。獣脚類の足跡の上に竜脚類の足跡がかぶさっているところがあります。これは大きな獣脚類がこの場所を歩いていたこと、おそらくその後、1日以上経ってから竜脚類が同じ場所を歩いたことが想像されます。足跡は、骨格化石からはわからないようなことを教えてくれるのです。

足跡の名称：ブロントポーダス　*Brontopodus*

白亜紀前期（およそ1億1200万年前）

シダーマウンテン層

NATIONAL SYSTEM OF PUBLIC LANDS
U.S. DEPARTMENT OF THE INTERIOR
BUREAU OF LAND MANAGEMENT



ドロマエオサウルス　足跡化石

ここに見える足跡は北アメリカで初めて発見されたドロマエオサウルス類の足跡です。この短い行跡はドロマエサウルス類の獣脚類、多分大型のデイノニクスによってつけられたものだとされています。よく見ると分かるように、それぞれの足跡には足の指の跡が二本しか残っていません。それは足の内側の指（第二指）には鎌のような鋭いカギヅメがあり、歩く時それが地面に触れなかったためだとされています。このドロマエオサウルス類の足跡は8.7インチ(22 センチ)の長さで、この恐竜の腰までの高さは４フィート(122 センチ）以下 でした。

跡地の名称：*Dromaeosauripus*ドロマエサウリプス

白亜紀前期（およそ1億1200万年前）

シーダーマウンテン層